

場面では、子どもたちが楽器の近くまで寄って見ていました。また指揮者体験も実施。立候補した小学生・中学生が音楽を通して楽員と交流しました。



2か所目は校内の壁面前での演奏です。壁画のモチーフは、震災時に旧雄勝中学校の校舎に唯一生き残った「奇跡の桜」と呼ばれる1本の桜の木です。しかし、数度の移植を行った結果、現在は桜が枯れそうになってしまいました。そこで桜の姿を残そうと、東京在住のアーティスト・安井鷹之介さんが壁画のプロジェクトを開始。5月に壁画が完成しました。

4月に事務所スタッフが学校を訪問した際、ちょうど壁画制作中の安井さんに出会い、美術と音楽のコラボレーションが実現しました。

壁画のモチーフや制作に向けての想いを受け、森山直太朗の《さくら》、葉加瀬太郎の《アナザースカイ》の2曲を演奏しました。

野外公演となるため天候が心配されましたがなんとか持ちこたえ、公演が終わるのを待っていたかのように雨が降り出しました。



#### ◆これまでの石巻訪問記録

2011年	5月10日	石巻高校(避難所)、湊小学校(避難所)、門脇中学校(避難所)、石巻中学校(避難所) 北上子育てセンターリアスホール
	10月4日	北上中学校
	5日	石巻専修大学(学生ホール)、あとリエ DaDa、追分温泉旅館(避難所)
2012年	8月7日	北上中学校
	8日	北上中学校体育館(共演:岡崎市立城北中)、あとリエ DaDa
	9日	こ〜ぷのお家いしのまき
2013年	3月3日	石巻市役所(市民サロン)
	4日	こ〜ぷのお家いしのまき、女川野球場仮設住宅
	5日	みなと荘
	6月23日	石巻市総合体育館
2014年	4月29日	女川町野球場仮設住宅、こ〜ぷのお家いしのまき
2016年	11月1日	雄勝オーリングハウス、川の上・百俵館/2日 こ〜ぷのお家いしのまき
2017年	11月30日	鮎川小学校
2018年	5月23日	川の上・百俵館/24日 雄勝ローズファクトリーガーデン、あとリエ DaDa
	25日	こ〜ぷのお家いしのまき
	10月14日	湊中学校
2019年	5月28日	二子団地日町会館/29日 雄勝小中学校/30日こ〜ぷのお家いしのまき
2021年	3月8日	川の上・百俵館 ※緊急事態宣言発令のため中止

## 日本フィル「被災地に音楽を」 訪問コンサート レポート 第52号

被災地支援の訪問演奏は、2011年4月から始まり、2022年6月末で通算311回となりました。



石巻市立雄勝小中学校 奇跡の桜 壁画前での演奏

訪問地 宮城県石巻市

2022年 6月21日 川の上・百俵館

6月22日 マルホンまきあーとテラス

6月23日 石巻市立雄勝小中学校

訪問メンバー

ヴァイオリン 田村 昭博/大貫 聖子

ヴィオラ 中川 裕美子

チェロ 横山 桂

宮城県石巻市は東日本大震災で甚大な津波の被害に見舞われました。避難所から仮設住宅へ、仮設住宅から復興住宅へと移転が進み、ハード面での復興が進む一方で、それまで築かれていたコミュニティがバラバラになるという現状がありました。日本フィルは2011年5月から石巻へ訪問してきましたが、新たなコミュニティを繋ぐお手伝いが少しでも出来ればとの思いを持ち続け、今回の訪問が12回目となります。

震災から11年が経ち、心の慰めや癒しから一歩進んで、未来に向かって希望をもって進む後押しになればとの思いで訪問しました。



## 2022年 6月21日 川の上・百俵館

震災で甚大な被害を受けた石巻の沿岸部の人々が集団移転した川の上地区。新旧住民が新たなコミュニティを作るための場として、百俵館が開館しました。昼間は図書館カフェとして、夕方は小学生～高校生のための寺子屋として、地域の子どもから大人まで幅広い世代が集う場所として親しまれています。

百俵館への訪問は、2016年、2018年につづいて3回目となります。

当日は寺子屋に通う子どもたちを中心に、保護者の方、地域の方が40名ほどご来場されました。演奏会中盤の指揮者体験コーナーでは、子どもたちがブラームスのハンガリー舞曲第5番を指揮。初めて持つ指揮棒、自分の振り方で演奏が変わることに驚く子どもたち。そしてその姿を地元の方が後ろから温かく見守る様子に、会場はとても心地よく温かい気持ちで包まれました。



## 2022年 6月22日 マルホンまきあーとテラス 小ホール

震災で被災した市民会館及び文化センターが閉館後、新たな文化拠点としてマルホンまきあーとテラス(石巻市複合文化施設)が2021年4月にオープンしました。家の形や煙突の形をした白い建物は、街の復興のシンボルとなっています。日本フィルとしては初めての訪問となりました。

地元の方が未来に向かって希望をもって進む後押しになればとの思いで開催した今回の公演。感染症対策のため事前の整理券配布制となり、予定枚数は公演1週間前には配布終了に。石巻の皆様から高い期待をいただいていることを感じながら会場入りしました。

開場前からお客様が続々と集まり、ほぼ満席となる約215名がご来場されました。当日は地域の方もスタッフとして公演を手伝っていただき、温かい交流が生まれました。



本格的なクラシック音楽を中心に、映画音楽、民謡、演歌など幅広い曲目と気さくなトークでコンサートは進み、終盤に行くにつれて会場は熱気に包まれます。鳴りやまない拍手に何度もカーテンコールが繰り返されました。

帰り際には「涙が出ました」と多くのお客様からお声がけが。「親しみやすく温かいコンサートをありがとうございました」「明日からまた頑張れそうです」「これからも定期的に石巻に是非来てください」といった言葉に、音楽を届けた日本フィルが、かえって地域の方から希望をいただいた公演でした。



なお、当日公演を手伝ってくださった地域の方は、「とびだす100通りのありがとう」というミュージカルを運営していらっしゃる方々でした。震災の13回忌に向けて、2023年にミュージカル公演を予定しているとのこと。被災者の心の復興になるように、そして亡くなった方へ思いを寄せる時間となるように、そして震災の教訓を伝承していく、そんなミュージカルを制作されています。

## 2022年 6月23日 石巻市立雄勝小中学校

雄勝小中学校との交流は、2019年以来2回目となります。震災によって大きな被害を受けた雄勝地区内全ての小・中学校が1つの学校に統合されました。海と山に囲まれた自然豊かな環境で、小学生23名、中学生10名が学んでいます。地域外から通う子どももいるとのことで、雄勝を大事に思う子どもたちを育てたいと先生は仰います。小学生は雄勝法印神楽、中学生は雄勝復興輪太鼓に取り組み、地域の伝統芸能を大切に受け継いでいます。

今回は学校内の2か所で演奏しました。会場となった多目的ホールは、扉を開けると一面に海が広がっています。事前に子どもたちに聞きたい楽曲のアンケートを取り、子どもたちの希望も取り入れながらのコンサートとなりました。ヴィヴァルディの《春》や、サン＝サーンスの《白鳥》では、ヴァイオリンとチェロの音色に興味深々。楽器のお話の

